

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第14回(通算89回)

共創と偶発の場のデザイン－VIVISTOP NITOBE を事例に－

1. 内容

VIVISTOP の概要と哲学:

- 目的を持たずに訪れ、そこで何をするか決める場所。スタッフも何が起こるか分からないが、それが新しい探求や遊びを生む。
- 世界7か国11拠点で展開(日本国内4拠点)。
- 学校の中でというのは「VIVISTOP NITOBE」のみ。
- 創造性教育やものづくり教育ではなく、子供と大人が対等なパートナーとして共に学び、社会を変革する相手という認識。ものづくりはそのための手段。フラットな関係が築きやすい。

VIVISTOP NITOBE の特徴:

- 土曜日には学校の生徒だけでなく、地域の子供も利用可能。ワークショップや授業は行わず、めあても計画もない。子供たちが自分のやりたいことを持ち込んで活動する。「させられている」子供はいない。
- 「子供のためにサポートはしない」「子供のためではなく未来のため」
- 小学生も大人も高校生も偶然の関わり合いや協働が生まれる。

学校の授業への影響:

- 自由な空間を活用したいと考える教員が授業で使っている。
- “総合”のプロジェクト活動で中高生がVIVISTOPの場を活用。放課後も自由に活用。
- 英語での絵本の制作

今後の展望:

- 中高生がVIVISTOPを利用し、卒業して大学生になって土曜日にアルバイトとして関わり続けてくれている。クリエイティブな環境への社会のニーズが高まっている中、ここで育った人材が活躍することを期待。

2. 所感

子供も大人も含め、誰もがより良い未来に向けて行動できる社会を目指すというVIVISTOPの理念は、現代社会において非常に重要であり、強く共感できるものです。大人が子供扱いせず子供に接することで、子供はより成長していくものだと思います。

また、目的を持たずに訪れ、そこで何をするか決めるというVIVISTOPの自由な環境は、創造性や探求心を育む上で理想的だと感じました。さらに、その教育方針にも深く感銘を受けました。創造性教育やものづくり教育ではなく、子供と大人が対等なパートナーとして共に学び、社会を変革するという考え方は、非常に革新的です。スポーツや体格差がある活動よりも、ものづくりがフラットな関係性を築けるという点も納得できました。

土曜日には学校の生徒だけでなく、地域の子供も利用可能であり、地域の小学生と高校生が偶発的に共同でプロジェクトを進める場面や、大人と子供が自然に関わり合い、共同作業を行う場面は特に印象に残りました。

今後の展望についてのお話の中で、「クリエイティブな環境のニーズが高まっている」というお話がありました。AI技術が進展する中で、今の子供たちが社会の中心となって活躍するころには今以上に人間として「何かを生み出す力」が求められてくると思います。本日のお話から、そのような時代において、現在、社会の中心に

いる年齢層の人々が、これから社会に出てくる若者を若者扱いせず、真のパートナーとして、ともによりよい未来を作っていくことが大切なんだ、と気づかされました。

山内先生、貴重なお話をありがとうございました。